

『あま市都市計画マスタープラン』及び『あま市緑の基本計画』 策定に係るアンケート調査

結果のまとめ

目 次

1. アンケート調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査概要	1
(3) 回収率	1
2. アンケート調査の結果	2
(1) 属性について	2
(2) 都市計画マスタープラン	3
(3) 緑の基本計画	12
(4) 自由意見（抜粋）	21

1. アンケート調査の概要

(1) 調査目的

- ・都市計画マスタープラン及び緑の基本計画の策定にあたり、市民の意見や要望を計画に反映させるため実施しました。

(2) 調査概要

- ・多様な世代から意見を聴取するため、郵送方式にて実施しました。

項目	内容
調査地域	あま市全域
調査対象者	市内にお住まいの満18歳以上の市民3,000人 (住民基本台帳より無作為抽出)
調査期間	令和2(2020)年 9月17日(木)～9月30日(水)
調査方法	郵送による配布・回収

(3) 回収率

- ・3,000人に対してアンケート調査票を配付し、1,377人(45.9%)の方からご回答いただきました。

項目	郵送方式
配付対象者	3,000人
回答者数(N)	1,377人
回収率	45.9%

※次頁以降、「回答者数=N」と表記します。

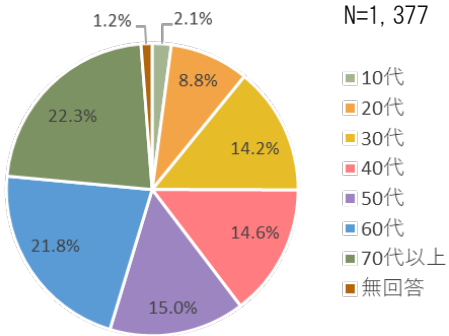
2. アンケート調査の結果

※四捨五入の関係で割合の合計が100.0%にならない場合があります。

(1) 属性について

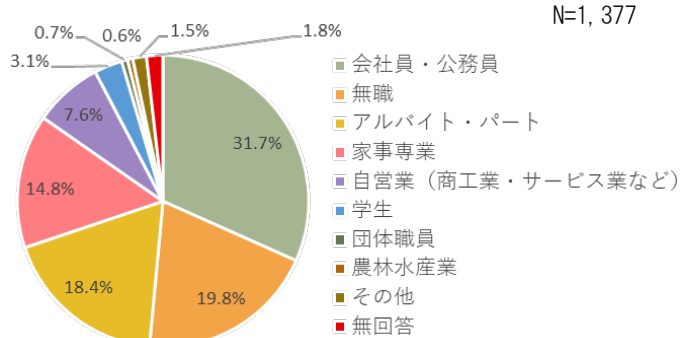
問1 年齢

「60代」(21.8%)、「70代」(22.3%)がほぼ同率で多く、次いで「50代」(15.0%)、「40代」(14.6%)となっています。



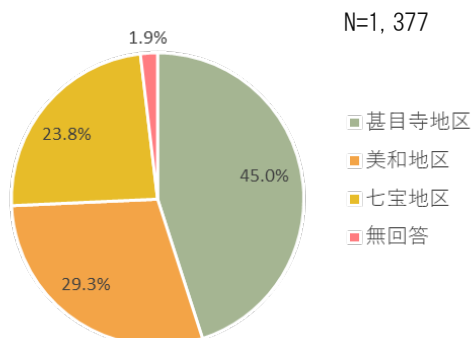
問2 職業

「会社員・公務員」(31.7%)が最も多く、次いで「無職」(19.8%)、「アルバイト・パート」(18.4%)となっています。



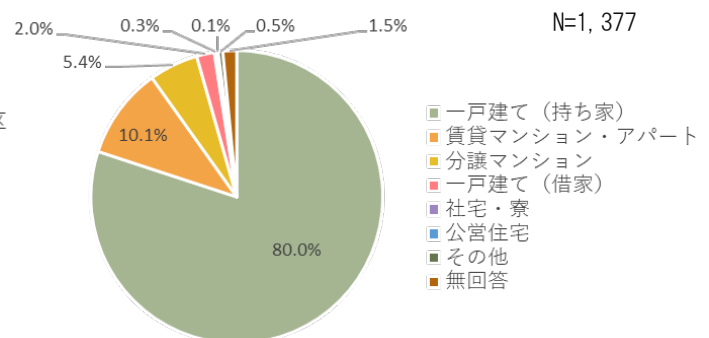
問3 居住地区

回答者の割合は「甚目寺地区」(45.0%)が最も多く、「美和地区」(29.3%)、「七宝地区」(23.8%)となっています。



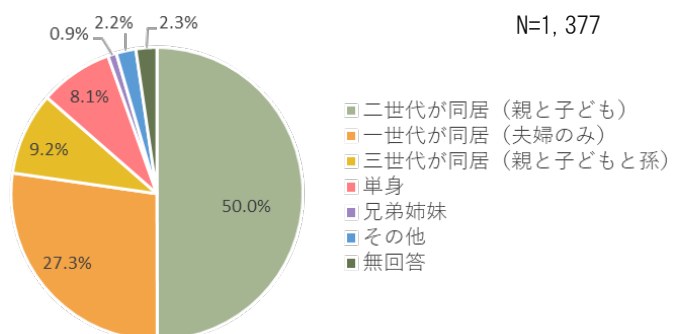
問4 居住形態

回答者の大半が「一戸建て(持ち家)」(80.0%)に住んでおり、分譲マンションや賃貸マンション・アパートに住む回答者は15.5%となっています。



問5 家族構成

「二世帯が同居(親と子ども)」(50.0%)が最も多く、次いで「一世帯が同居(夫婦のみ)」(27.3%)、「三世帯が同居(親と子どもと孫)」(9.2%)となっています。

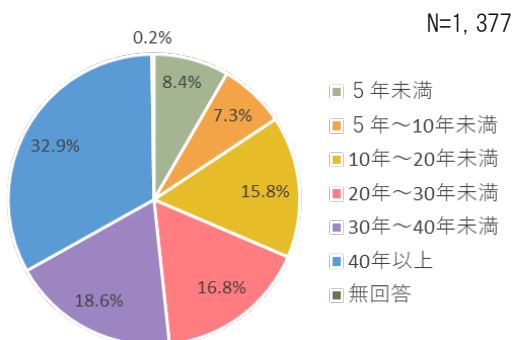


(2) 都市計画マスタープラン

【I 今後の居留意向について】

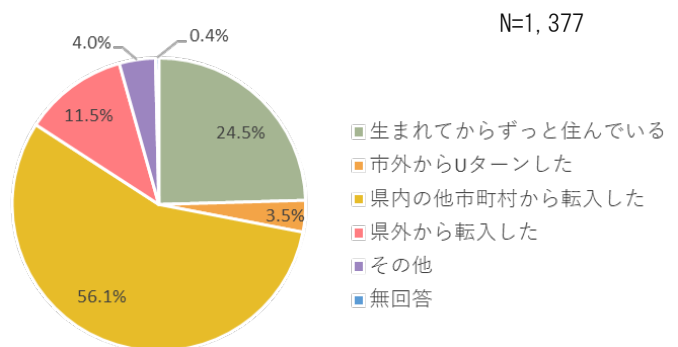
問1 居住年数

平成22(2010)年の合併以前から本市に住んでいる回答者(=居住年数10年以上)は84.1%、合併後から本市に住んでいる回答者(=居住年数10年未満)は15.7%となっています。



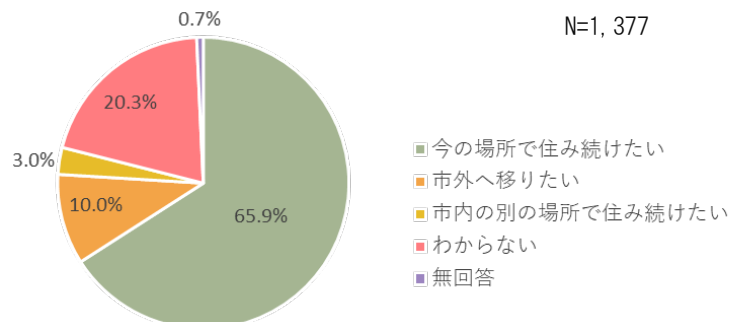
問2 居住している経緯

県内もしくは県外から転入している回答者は67.6%と高い傾向にある一方で、「生まれてからずっと住んでいる」回答者は24.5%となっています。また、一度市外へ転出しその後再び本市に戻ってきた(Uターン)回答者は3.5%となっています。



問3 今後の居留意向

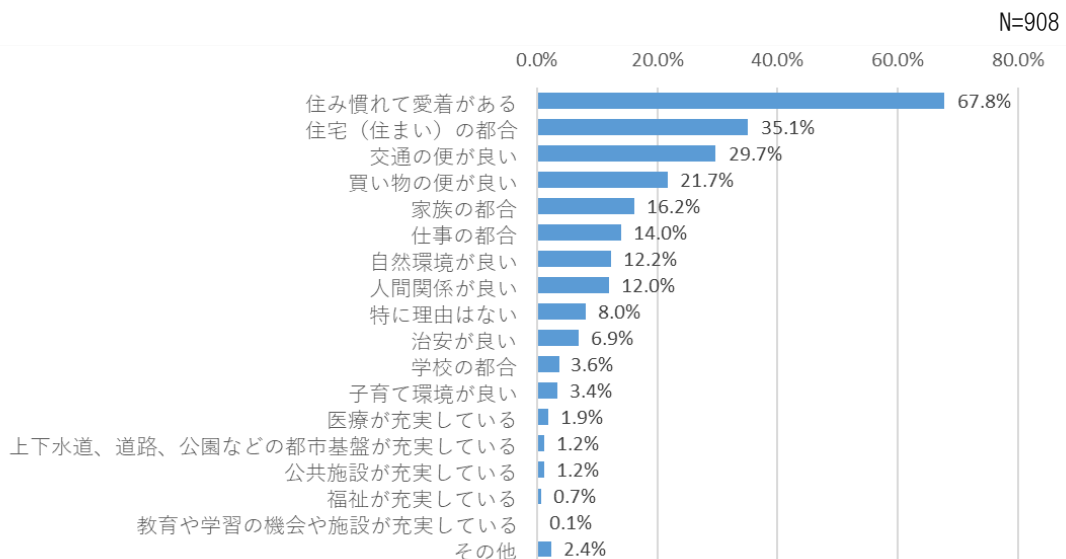
「今の場所で住み続けたい(65.9%)」が比較的高い傾向にある一方で、13.0%の回答者は市内の別の場所、もしくは市外へ移りたいと回答しています。



問4

(問3「1. 今の場所で住み続けたい」とご回答した方)
住み続けたいと思う理由(3つまで回答)

住み続けたい理由として、「住み慣れて愛着がある」(67.8%)が最も高く、次いで「住宅(住まい)の都合」(35.1%)となっています。その他にも「交通の便が良い」(29.7%)や「買い物の便が良い」(21.7%)などが挙げられています。

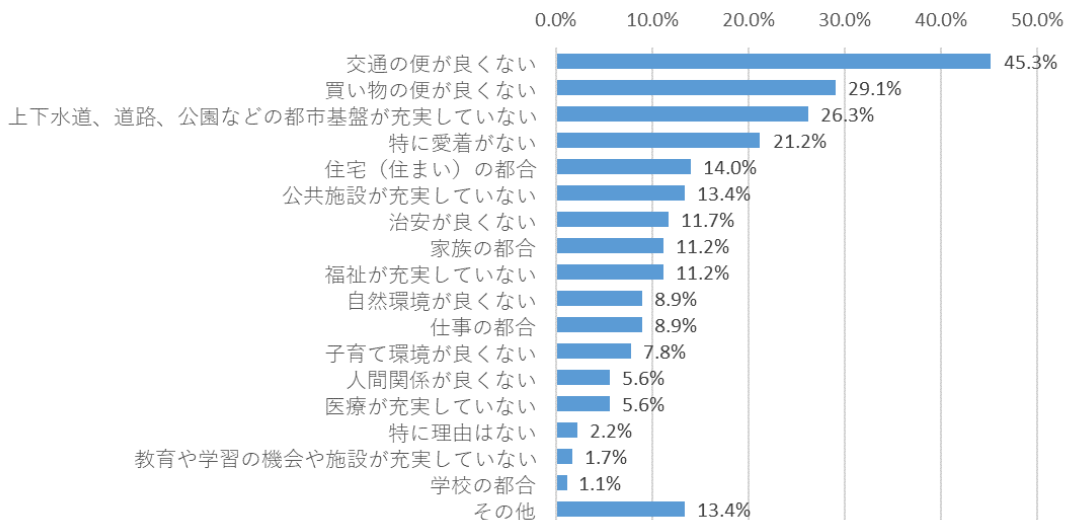


問5

（問3「2. 市内の別の場所で住み続けたい」「3. 市外へ移りたい」とご回答した方）移転したいと思う理由（3つまで回答）

市内の別の場所もしくは市外へ移りたいと思う理由として、「交通の便が良くない」（45.3%）や「買い物の便が良くない」（29.1%）、「上下水道、道路、公園などの都市基盤が充実していない」（26.3%）が挙げられています。

N=179



問6

（問3「2. 市内の別の場所で住み続けたい」「3. 市外へ移りたい」とご回答した方）移転先として考えている場所や地域（自由記述）

移転先として本市内を挙げた回答者は8人となっています。愛知県内の市町を挙げた回答者は92人おり、「名古屋市」が最も多くなっています。

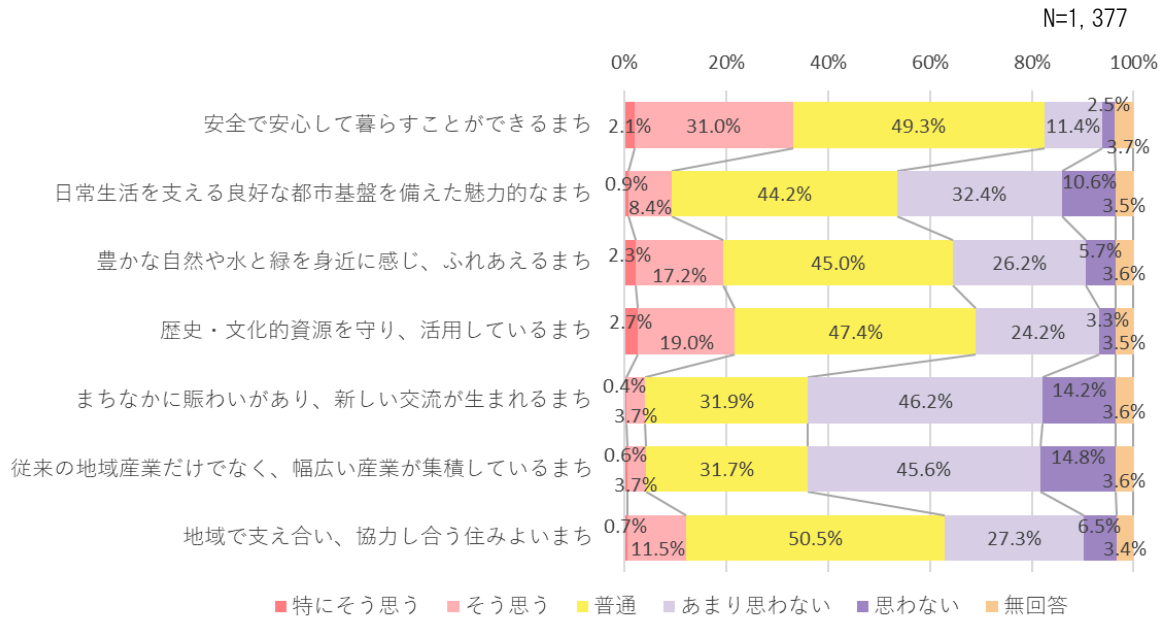
N=179のうち、自由回答

主な移転先		回答数
あま市内	鉄道駅が近い場所、木田区画整理事業地内 等	8
愛知県内	名古屋市	64
	名古屋市以外（長久手市、春日井市、一宮市 等）	20
愛知県外	三重県、岐阜県、静岡県、東京都 等	9
その他	徒歩圏内に買い物施設や医療施設が揃っている場所 公共施設が充実している場所、水害の心配がない場所 周辺に自然や公園がある場所 等	18

【Ⅱ あま市の現状について】

問7 現在のあま市のイメージ（項目毎に回答）

回答者が思うあま市のイメージとしては、「安全で安心して暮らすことができるまち」や「歴史・文化的資源を守り、活用しているまち」というイメージがあるものの、「まちなかに賑わいがあり、新しい交流が生まれるまち」や「従来の地域産業だけでなく、幅広い産業が集積しているまち」というイメージはほとんど持たれていません。



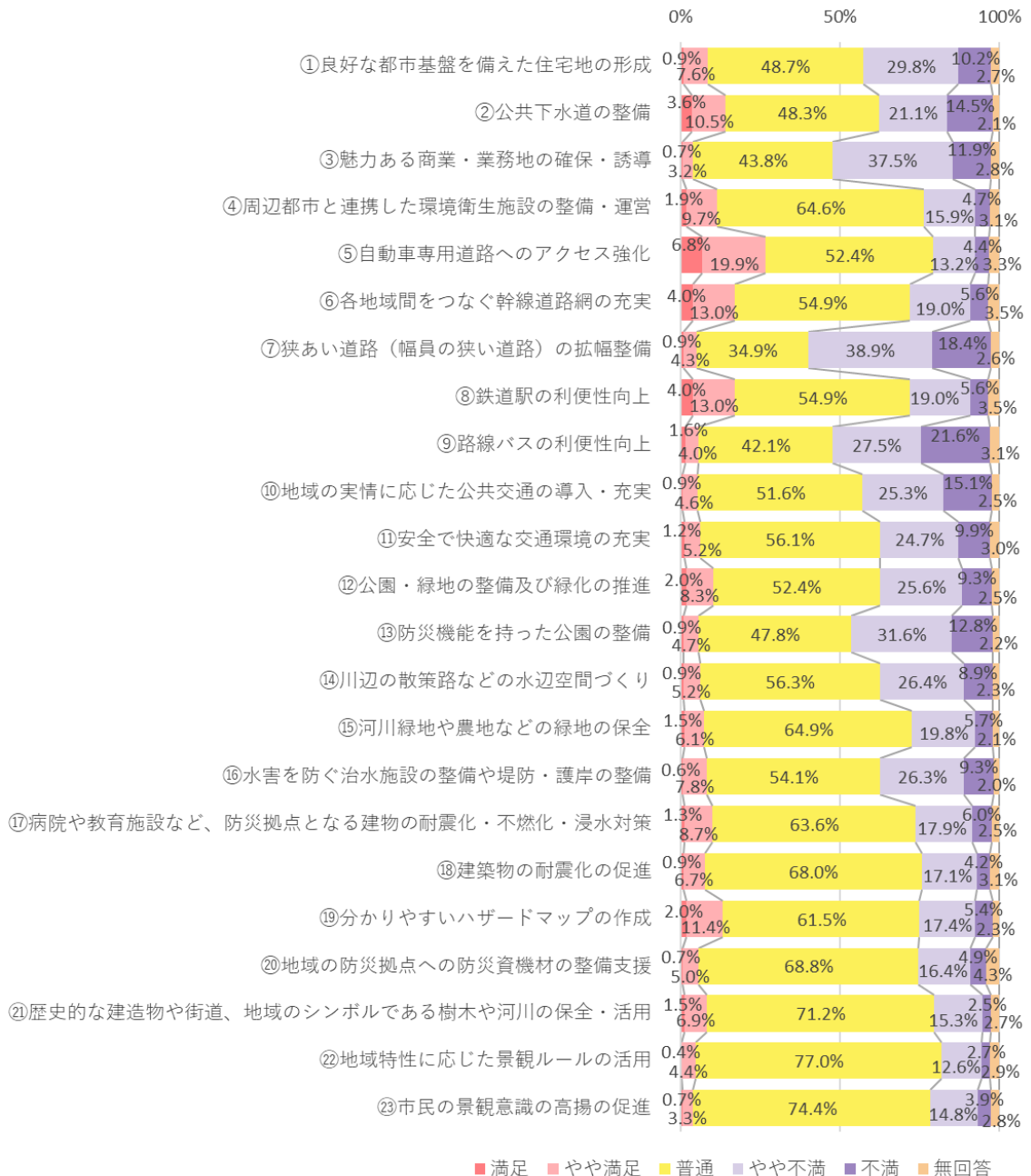
問8

あま市のまちづくりに対する「現状の満足度」と「今後の重要度」
(項目毎に回答)

＜現状の満足度＞

全体的にあま市のまちづくりに対して「満足・やや満足」と思う回答者は少ない傾向にありますが、「自動車専用道路へのアクセス強化」や「鉄道駅の利便性向上」、「各地域間をつなぐ幹線道路網の充実」等の移動のしやすさの点は、他の項目と比較して満足度が高い傾向にあります。一方で、「魅力ある商業・業務地の確保・誘導」や「狭あい道路（幅員の狭い道路）の拡幅整備」、「路線バスの利便性向上」等の日常生活に密接に関係するものについては、満足度が特に低い状況となっています。

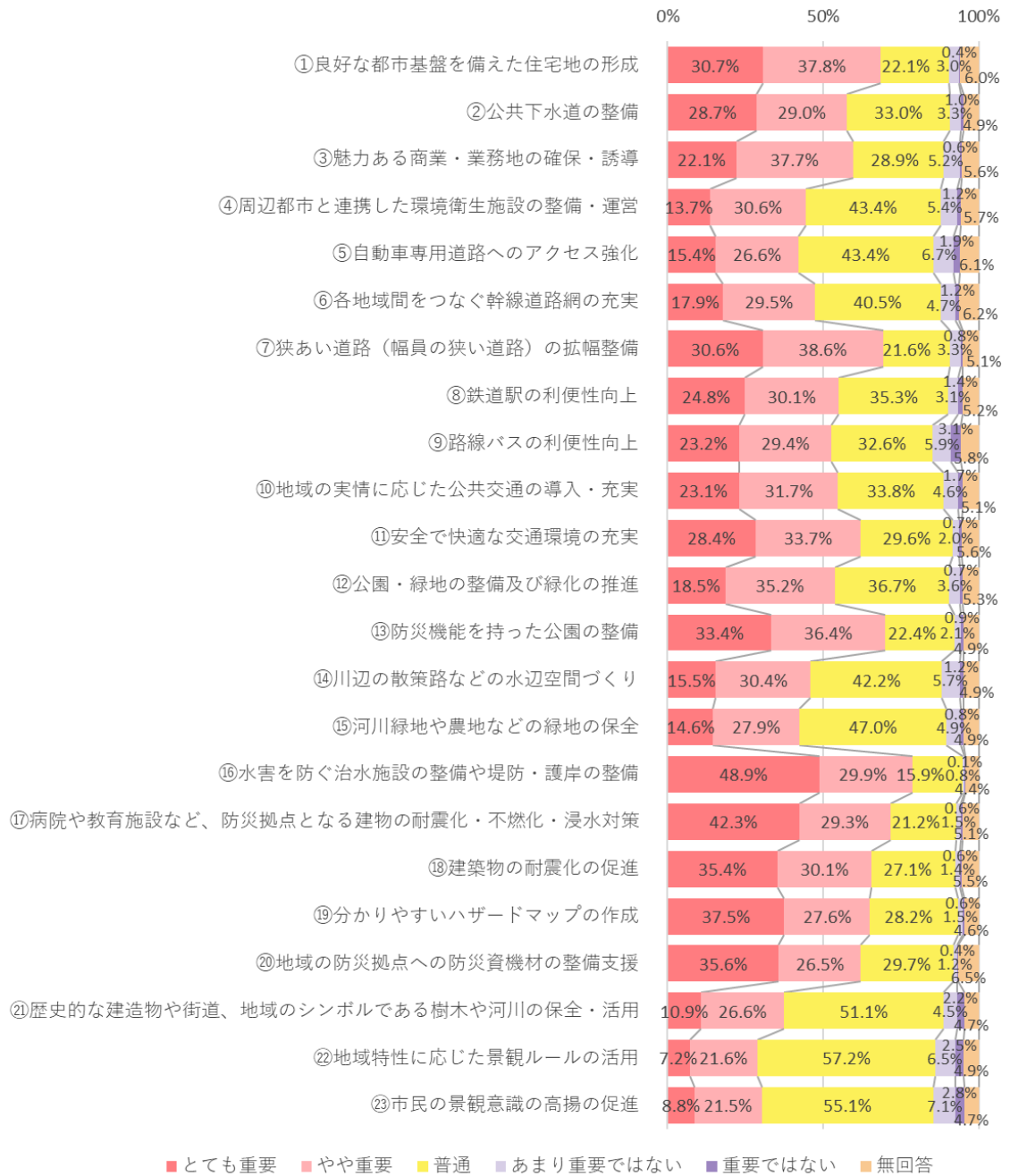
N=1,377



<今後の重要度>

満足度の低さに比例して、全体的に重要度が高い傾向にあります。特に「水害を防ぐ治水施設の整備や堤防・護岸の整備」や「良好な都市基盤を備えた住宅地の形成」、「狭い道路（幅員の狭い道路）の拡幅整備」等は重要度が7割程度を占めています。

N=1,377

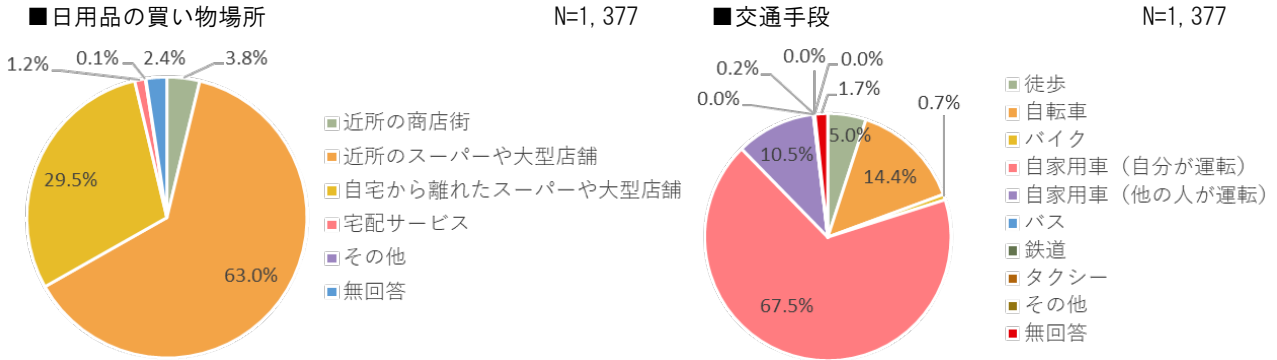


【Ⅲ 日常生活の移動について】

問9 交通手段（項目毎に回答）

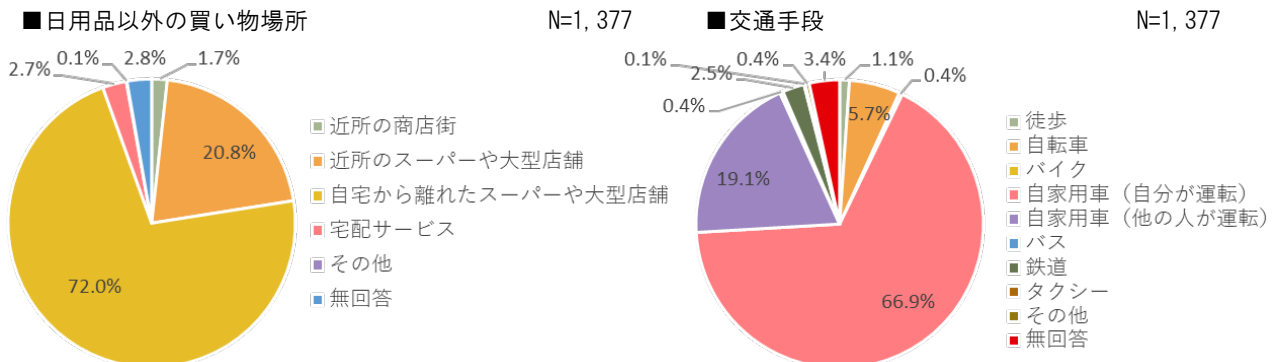
＜日用品の買い物場所と交通手段＞

日用品の買い物場所は、「近所のスーパーや大型店舗」（63.0%）が最も多く、次いで「自宅から離れたスーパーや大型店舗」（29.5%）となっています。交通手段は、「自家用車（自分で運転・他の人が運転の合計）」（78.0%）が最も多く、次いで「自転車」（14.4%）となっています。



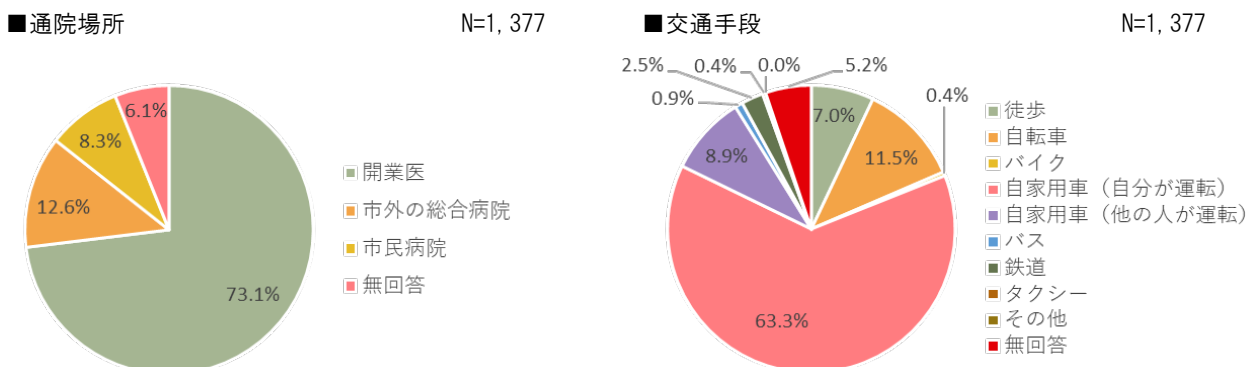
＜日用品以外の買い物の場所と交通手段＞

日用品以外の買い物場所は、「自宅から離れたスーパーや大型店舗」（72.0%）が最も多く、交通手段については「自家用車（自分で運転・他の人が運転の合計）」（86.0%）が最も多くなっています。



＜通院している場所と交通手段＞

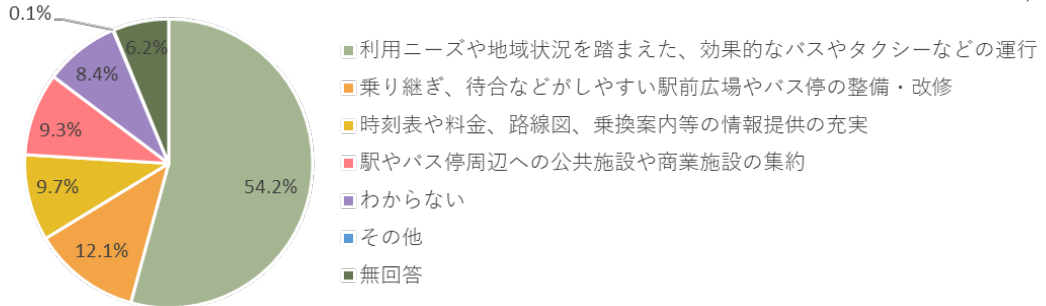
通院している場所は「開業医」（73.1%）が最も多く、交通手段については「自家用車（自分で運転・他の人が運転の合計）」（72.2%）が最も多くなっています。



問 10 誰もが円滑に公共交通を利用できるようにするために必要だと思う取り組み

公共交通に関して必要だと思う取り組みとして、「利用ニーズや地域状況を踏まえた、効果的なバスやタクシーなどの運行」(54.2%)が最も多く、次いで「乗り継ぎ、待合などがしやすい駅前広場やバス停の整備・改修」(12.1%)となっています。

N=1,377

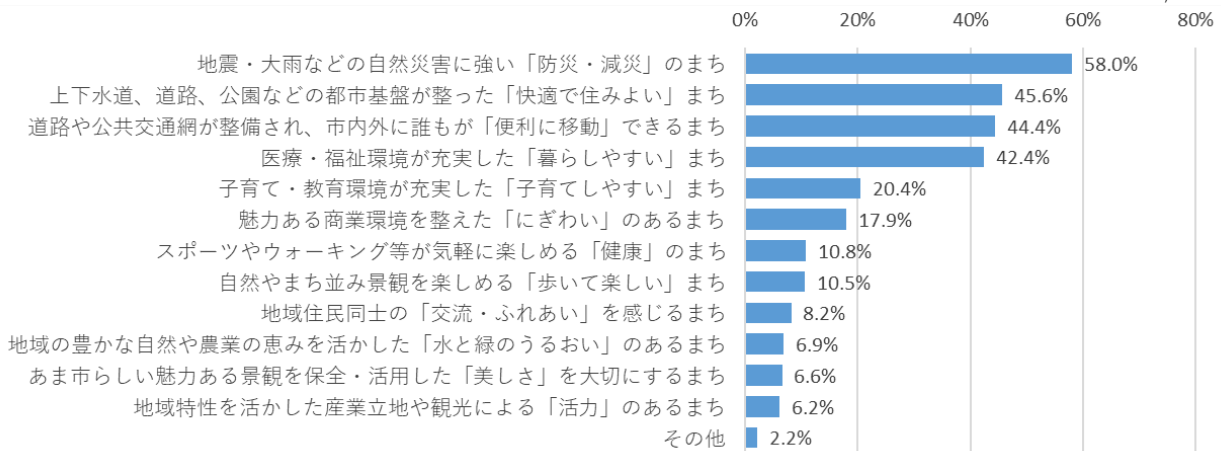


【IV 今後のまちづくりについて】

問 11 お住まいの地域のまちづくりで進めていけば良いと思うこと (3つまで回答)

今後のまちづくりとして、あま市の地域特性上「地震・大雨などの自然災害に強い『防災・減災』のまち」(58.0%)が最も多く、次いで「上下水道、道路、公園などの都市基盤が整った『快適で住みよい』まち」(45.8%)となっています。

N=1,377

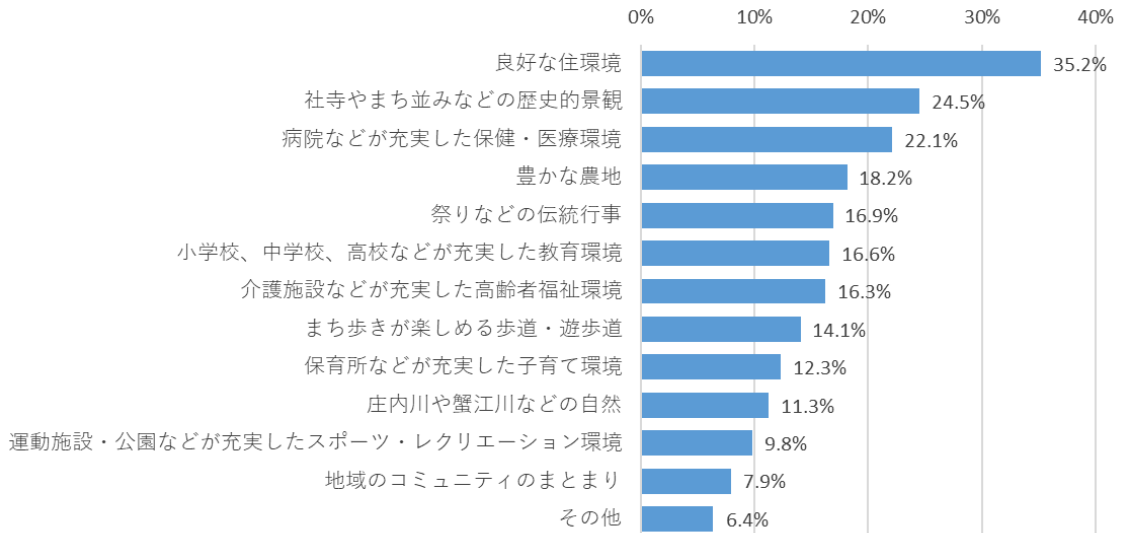


問12

お住まいの地域で、誇りを感じ、地域のまちづくりに活用できるもの
(3つまで回答)

市民が誇りを感じているものとして、「良好な住環境」(35.2%)や「社寺やまち並みなどの歴史的景観」(24.5%)、「病院などが充実した保健・医療環境」(22.1%)が挙げられている一方、「地域のコミュニティのまとまり」(7.9%)や「運動施設・公園などが充実したスポーツ・レクリエーション環境」(9.8%)は低い傾向となっています。

N=1,377

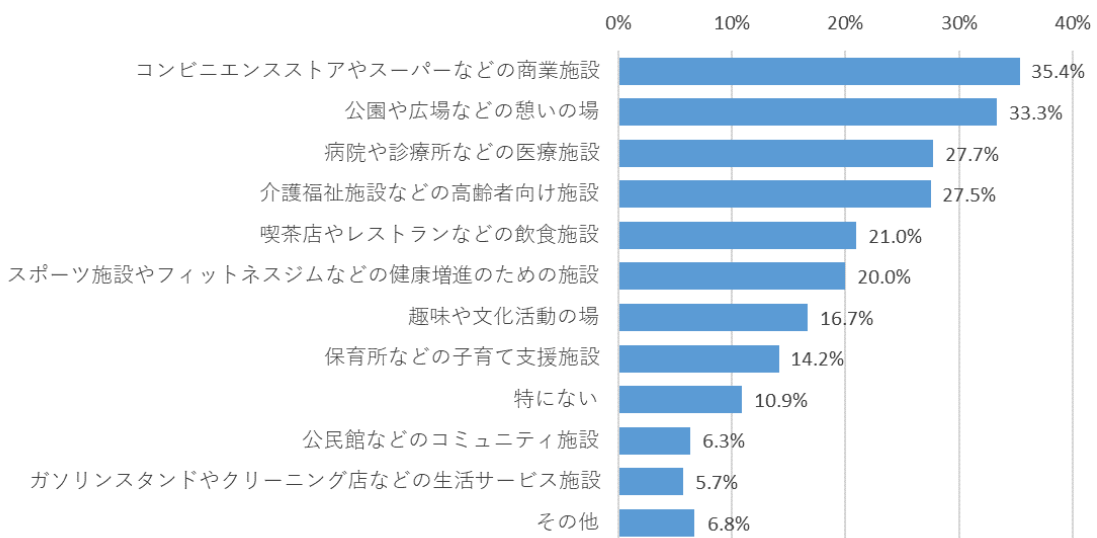


問13

お住まいの地域に必要なと思う施設(3つまで回答)

地域に必要なと思う施設として、「コンビニエンスストアやスーパーなどの商業施設」(35.4%)や「公園や広場などの憩いの場」(33.3%)、「病院や診療所などの医療施設」(27.7%)等、市民が日常的に利用する施設が求められています。

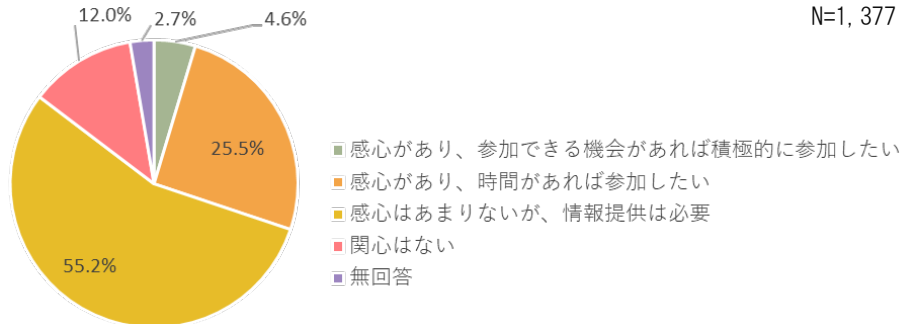
N=1,377



【V まちづくりへの参加について】

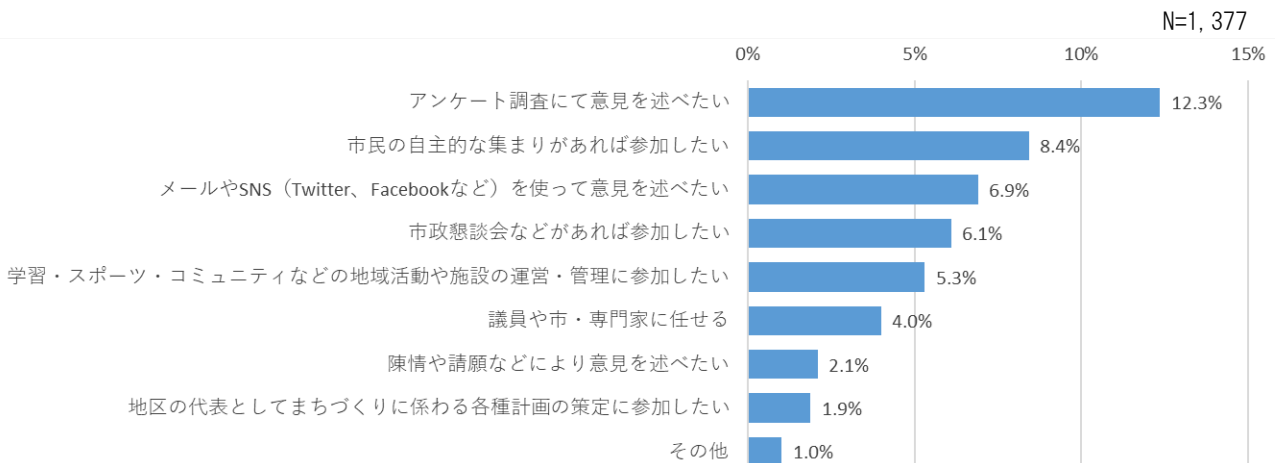
問 14 「あま市のまちづくり」に対する関心

まちづくりに対する関心度として、「積極的に参加したい・時間があれば参加したい」と回答した市民は30.1%で、7割近く(67.2%)の市民が「関心はない・あまりない」と回答しています。



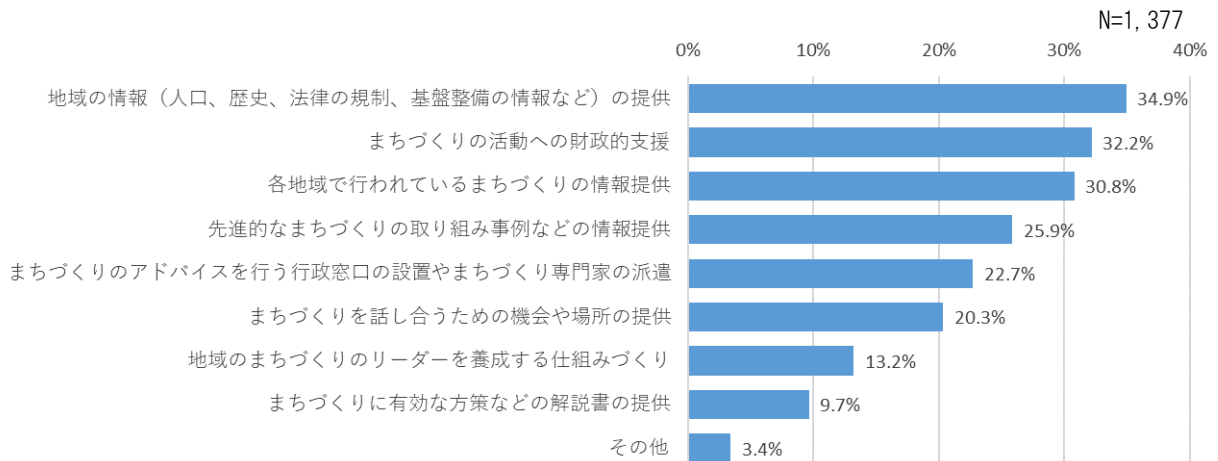
問 15 「あま市のまちづくり」への参加方法（複数回答）

まちづくりへの参加方法として、「アンケート調査による参加」(12.3%)が最も多く、次いで「市民の自主的な集まりがあれば参加したい」(8.4%)となっています。また、近年の情報社会の進展により、「メールやSNSの利用による参加」(6.9%)と回答された市民もいました。



問 16 市民協働のまちづくりを進めるために、行政が重点的に行うべき取り組み（3つまで回答）

重点的に行うべき取り組みとして、「地域の情報の提供」(34.9%)や「まちづくりの活動への財政的支援」(32.2%)が挙げられており、特に情報提供としては、「各地域で行われているまちづくり」(30.8%)や「先進的な取り組み事例」(25.9%)等も求められています。



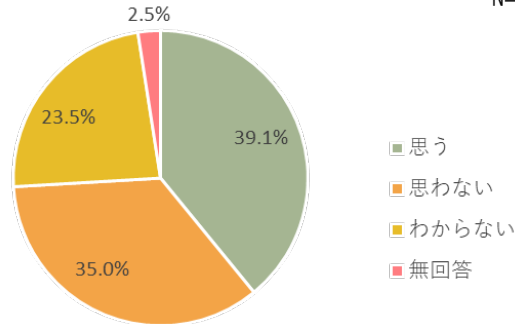
(3) 緑の基本計画

【I あま市の緑について】

問1 あま市は「緑豊かなまち」だと思いますか。(単一回答)

「緑豊かなまち」だと思う人・思わない人はどちらも約40%程度となっています。

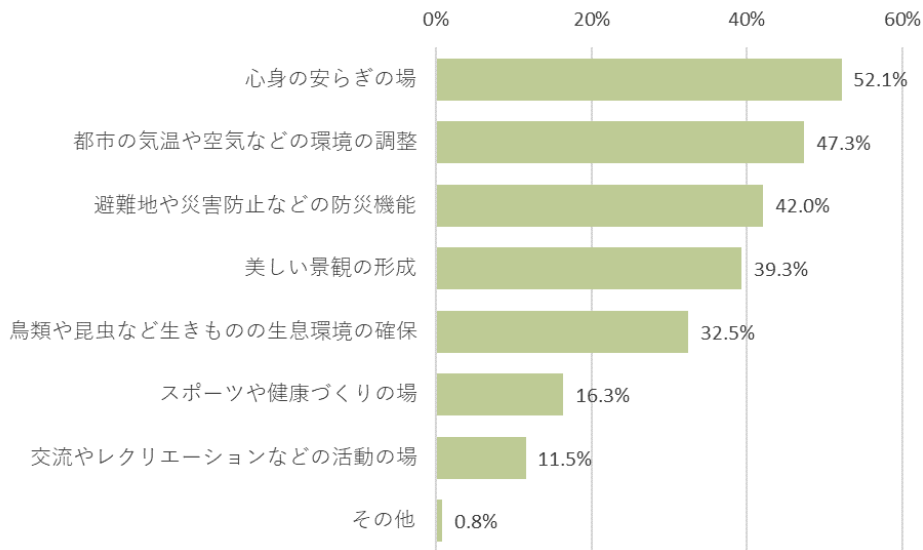
N=1,377



問2 緑が持つさまざまな役割や機能のうち、特に重要と考えるもの(3つまで回答)

重要だと思う機能として、「心身の安らぎの場」(52.1%)が最も多く、次いで「都市の気温や空気などの環境の調整」(47.3%)、「避難地や災害防止などの防災機能」(42.0%)となっています。

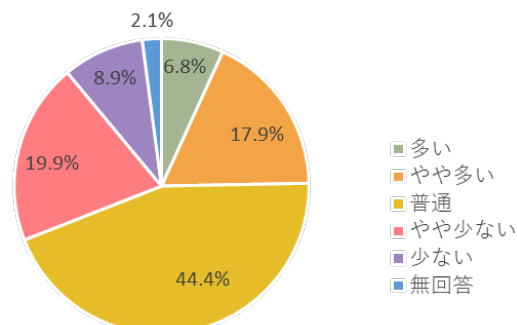
N=1,377



問3 お住まいの地域の緑の量

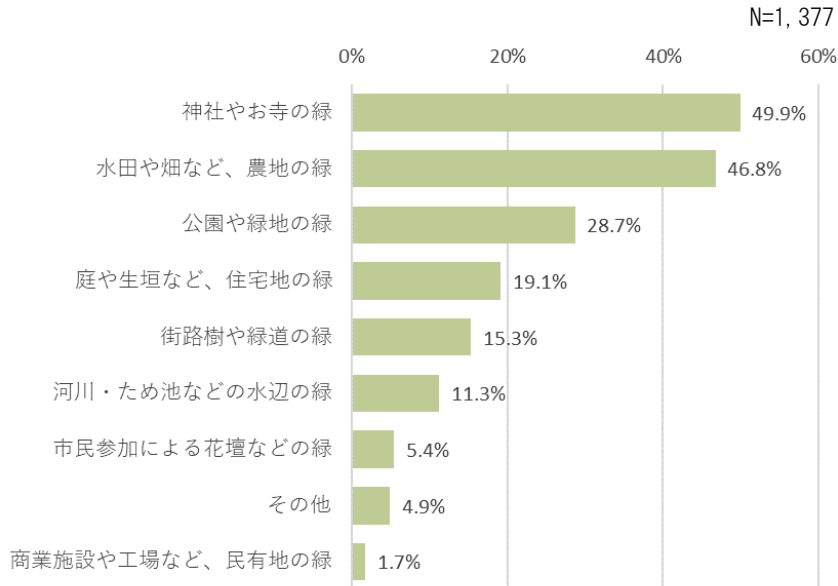
「地域の緑の量として、「多い・やや多い」が24.7%に対し、「やや少ない・少ない」が28.8%となっていることから、市民の緑に対する意識は低い傾向にあります。

N=1,377



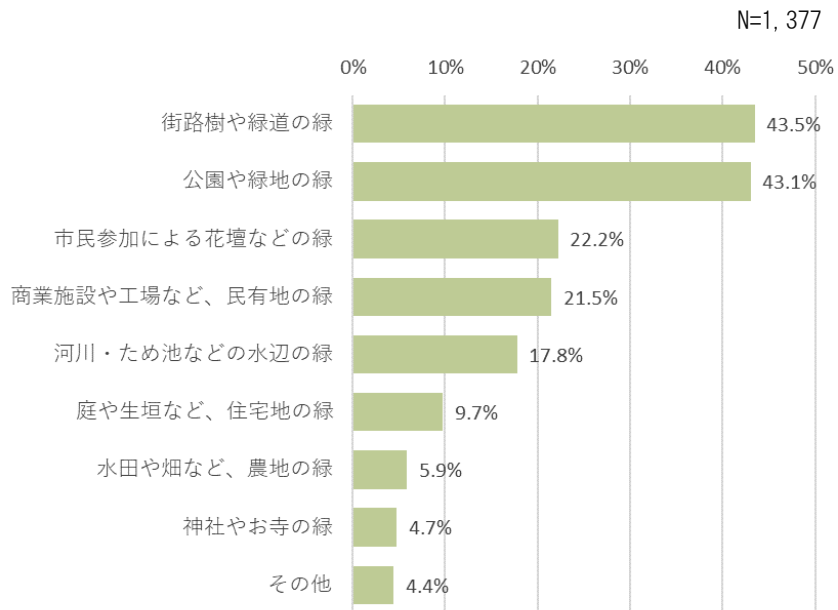
問4 お住まいの地域の緑で、気に入っている緑（3つまで回答）

市民が気に入っている緑として、「神社やお寺の緑」（49.9%）、「水田や畑など、農地の緑」（46.8%）、「公園や緑地の緑」（28.7%）が挙げられています。



問5 お住まいの地域で不足していると思う緑（3つまで回答）

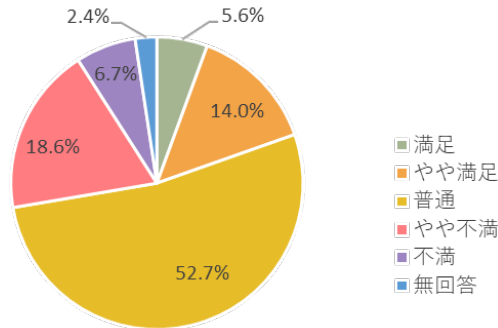
不足している緑として、「街路樹や緑道の緑」（43.5%）や「公園や緑地の緑」（43.1%）が挙げられており、公共緑地が不足していると回答している市民が多い傾向にあります。



問6 お住まいの近くの緑の満足度（単一回答）

緑に対する満足度として、「満足・やや満足」が19.6%に対し、「やや不満・不満」は25.3%となっていることから、満足よりも不満に感じている市民がやや多い傾向となっています。

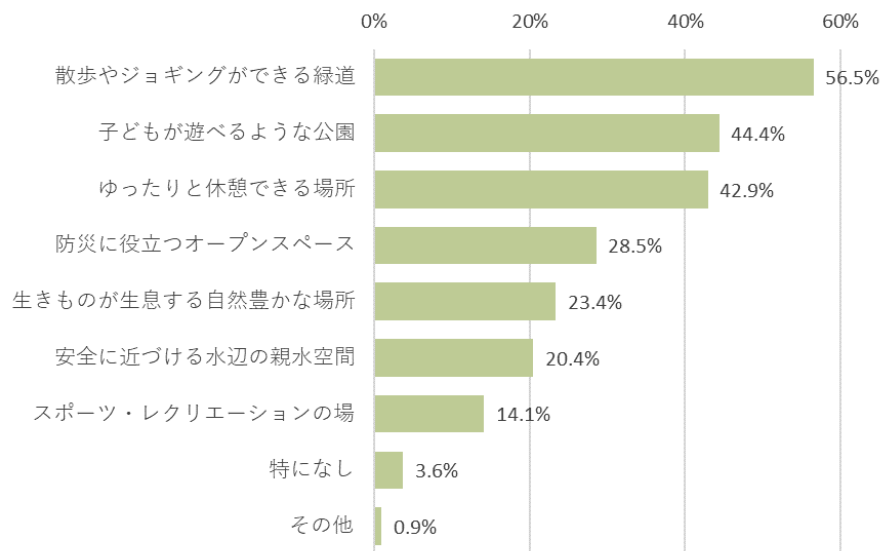
N=1,377



問7 身近な場所であれば良いと思う緑の空間（3つまで回答）

身近な緑の空間として、「散歩やジョギングができる緑道」(56.5%)が最も多く、次いで「子どもが遊べるような公園」(44.4%)、「ゆったりと休憩できる場所」(42.9%)が求められています。

N=1,377

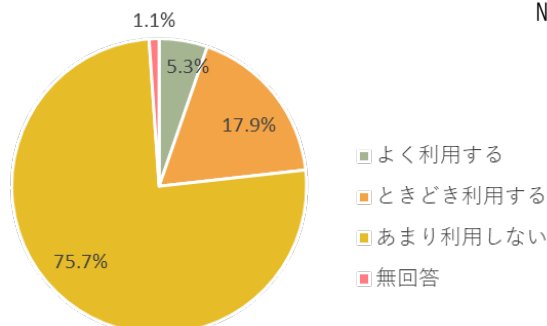


【II あま市の公園施設について】

問8 市内の公園の利用頻度（単一回答）

市民の75.7%が公園を「あまり利用しない」と回答しています。

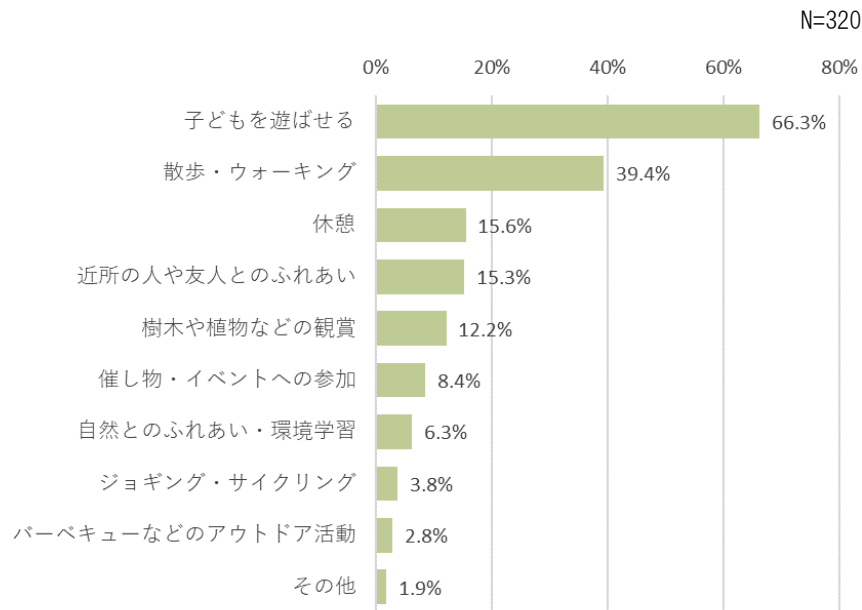
N=1,377



問9

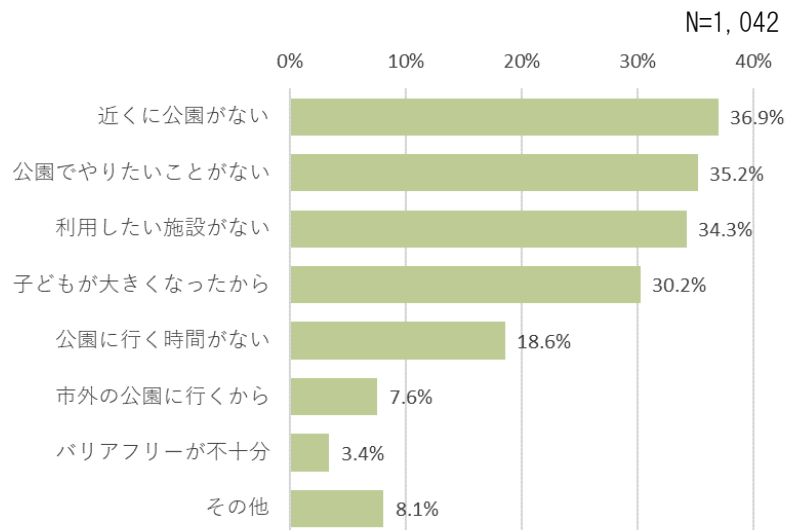
(問8で「1. よく利用する」「2. ときどき利用する」と回答した方)
市内の公園を利用する主な目的(3つまで回答)

公園を利用する主な理由として、「子どもを遊ばせる」(66.3%)が最も多く、次いで「散歩・ウォーキング」(39.4%)が挙げられています。

**問10**

(問8で「3. あまり利用しない」と回答した方)
市内の公園を利用しない理由(3つまで回答)

公園を利用しない理由として、「近くに公園がない」(28.2%)が最も多く、次いで「公園でやりたいことがない」(21.0%)が挙げられており、公園の量・質の面からも利用しない理由が挙げられています。



問11 よく利用する公園（自由記述）

＜市内（上位10ヶ所）＞

市内でよく利用する公園として挙げた都市公園は森ヶ丘公園（50人）が最も多く、次いで二ツ寺親水公園（14人）、木田郷西公園（13人）となっています。

都市公園以外では、七宝焼アートヴィレッジ（35人）や文化の杜（美和文化会館）（7人）、上萱津コミュニティ防災センター（5人）等、公共施設に併設する緑地や広場が挙げられています。

項目	回答数
森ヶ丘公園	50
七宝焼アートヴィレッジ	35
二ツ寺親水公園	14
木田郷西公園	13
小路1号公園（旧ふれあい公園）	12
リバーサイドガーデン	7
文化の杜（美和文化会館）	7
小路2号公園（旧なかよし公園）	6
池端ちびっこ広場	6
上萱津コミュニティ防災センター	5

＜市外（上位20ヶ所）＞

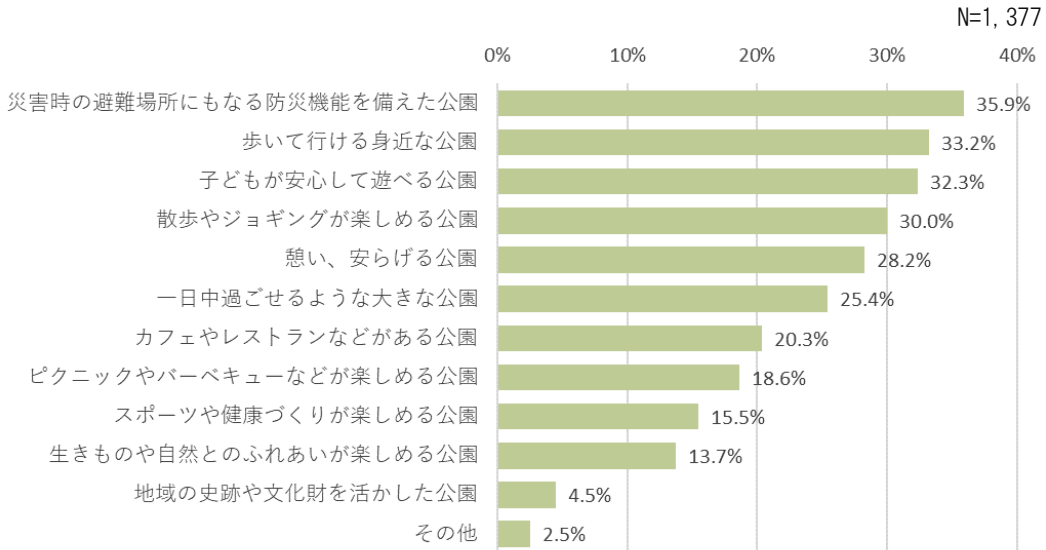
市外でよく利用する公園として挙げた公園は戸田川緑地公園（71人）が最も多く、次いで国営木曾三川公園（43人）、庄内緑地公園（35人）となっています。

よく利用する公園の所在地は、名古屋市や津島市、稲沢市等の隣接市町が多くなっています。

項目	回答数
戸田川緑地公園（名古屋市）	71
国営木曾三川公園（愛知県・三重県・岐阜県）	43
庄内緑地公園（名古屋市）	35
海南こどもの国（弥富市）	33
天王川公園（津島市）	27
名城公園（名古屋市）	22
祖父江緑地公園（稲沢市）	19
中村公園（名古屋市）	16
鶴舞公園（名古屋市）	10
津島東公園（津島市）	10
稲沢公園（稲沢市）	7
大高緑地公園（名古屋市）	5
荒子川公園（名古屋市）	5
モリコロパーク（長久手市）	5
養老公園（養老町）	5
清洲公園（清須市）	5
富田公園（名古屋市）	4
県立愛知県森林公園（名古屋市・尾張旭市）	4
愛知県下水道科学館（稲沢市）	4
佐屋川創郷公園（蟹江町）	3
込野農村広場（稲沢市）	3

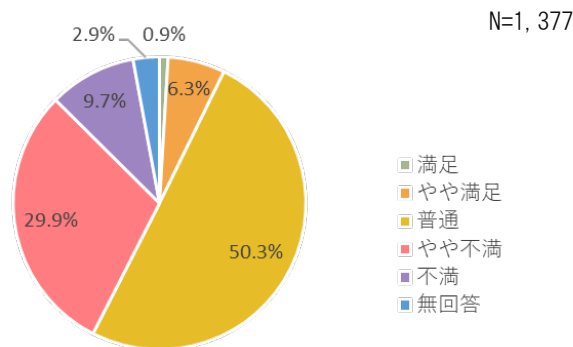
問 12 市内にあれば良いと思う公園（3つまで回答）

求められる公園として、「災害時の避難場所にもなる防災機能を備えた公園」（35.9%）や「歩いて行ける身近な公園」（33.2%）、「子どもが安心して遊べる公園」（32.3%）等が挙げられています。



問 13 身近な公園や緑道の維持管理に対する満足度（単一回答）

公園や緑道の維持管理の満足度について、「満足・やや満足」が7.2%に対し、「不満・やや不満」が39.6%であることから、満足よりも不満に感じている市民が多い傾向にあります。



問 14 今後の身近な公園や緑道の維持管理（単一回答）

今後の維持管理の方向性として、「市が維持管理する」（42.0%）が最も多く、次いで「市と地区が協力して維持管理する」（37.6%）となっています。また、行政による維持管理ではなく、「民間事業者やボランティアを募って維持管理してもらおう」（9.4%）といった新たな維持管理方法も挙げられています。



【Ⅲ あま市の農地について】

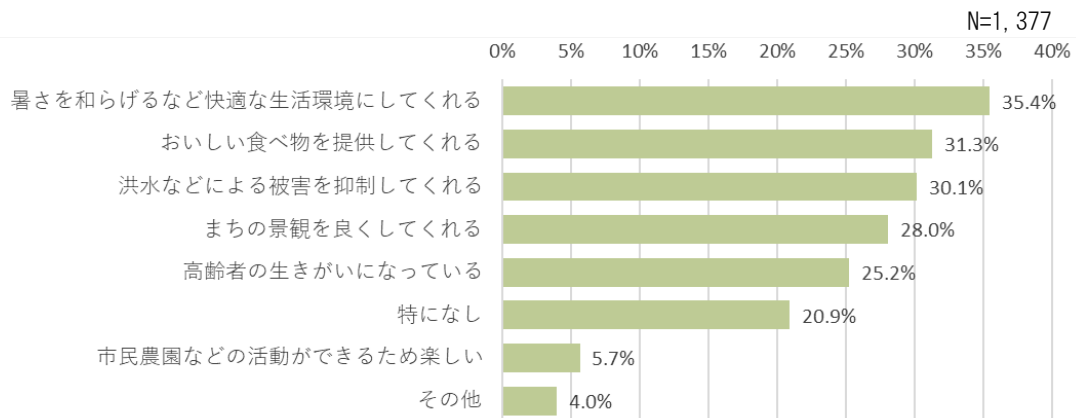
問 15 今後の市内の農地について（単一回答）

農地のあり方について、「農業体験などに活用できると良い」（37.0%）、「保全していくべき」（36.5%）となっていることから、全体の約7割の市民が農地の保全及び活用を望んでいる傾向にあります。



問 16 身近な農地のイメージ（3つまで回答）

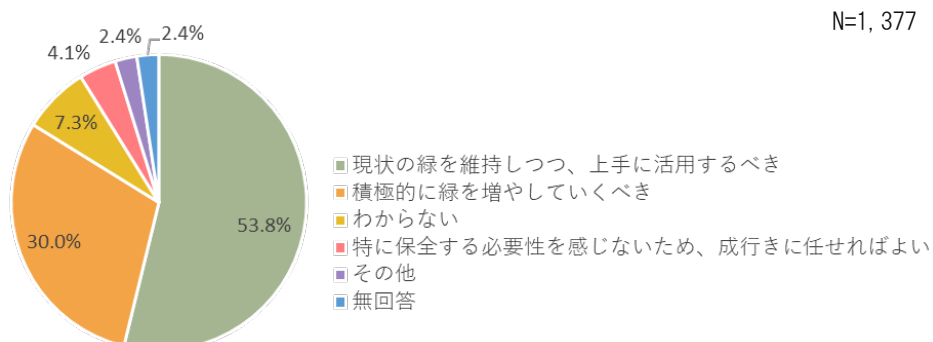
農地に対して、暑さの緩和や洪水の被害抑制といった環境面・防災面での働きを担うイメージが持たれているほか、食糧生産の場や高齢者の生きがいといった面でのイメージも持たれています。



【Ⅳ あま市の緑に関する取り組みについて】

問 17 今後の市全体の緑に対する取り組み（単一回答）

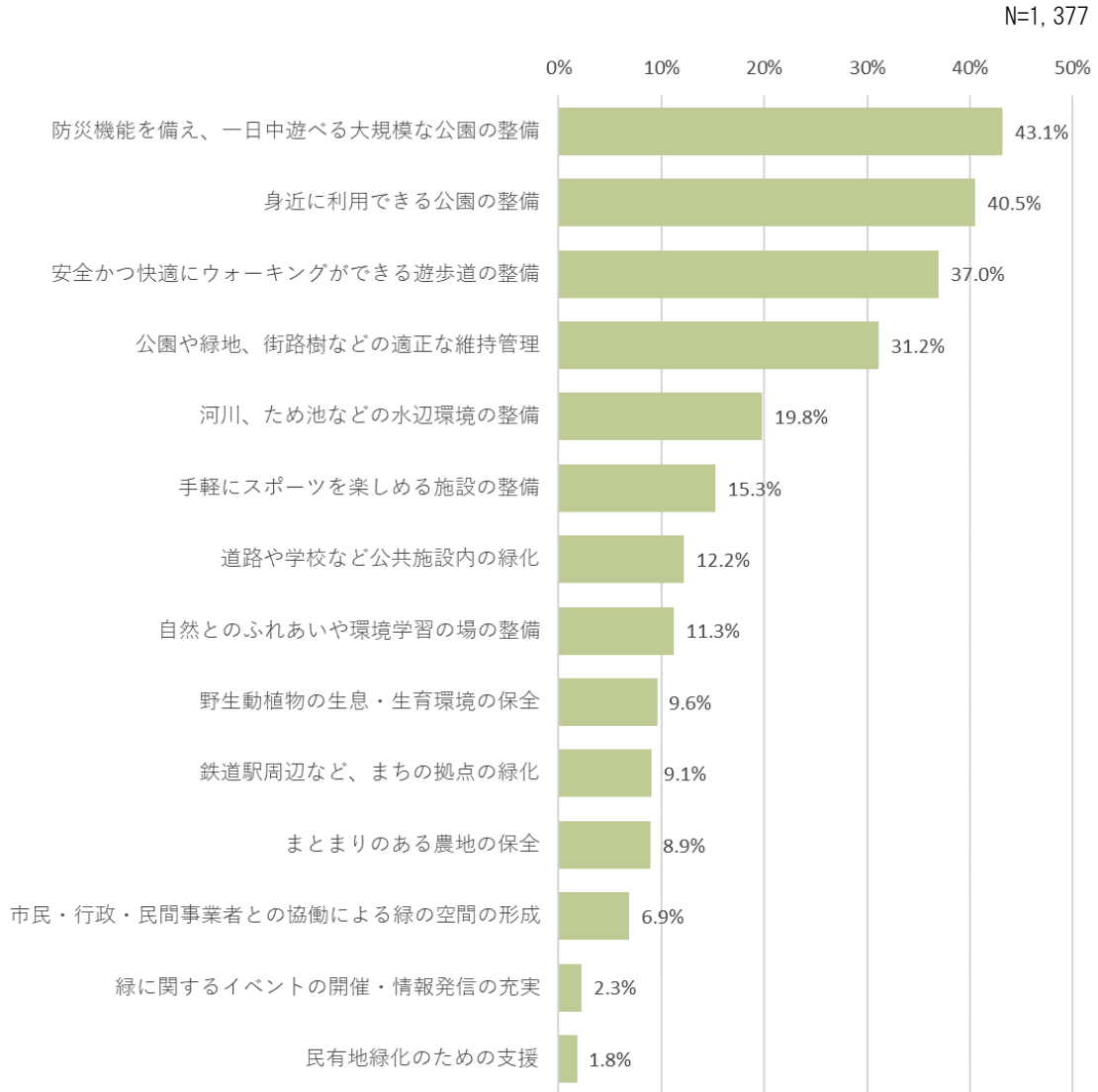
今後の緑に対する取り組みとして、「現状の緑を維持しつつ、上手に活用するべき」（53.8%）が最も多く、次いで「積極的に緑を増やしていくべき」（30.0%）となっており、緑に対する取り組みについて、前向きに捉えている傾向にあります。



問 18

緑のまちづくりを進める上で、重点的・優先的に進めるべき取組み
(3つまで回答)

重点的・優先的に進めるべき取組みとして、「防災機能を備え、一日中遊べる大規模な公園の整備」(43.1%)や「身近に利用できる公園の整備」(40.5%)、「安全かつ快適にウォーキングができる遊歩道の整備」(37.0%)等、ハード面での取組みが求められている一方で、「公園や緑地、街路樹などの適正な維持管理」(31.2%)といったソフト面での取組みも求められています。

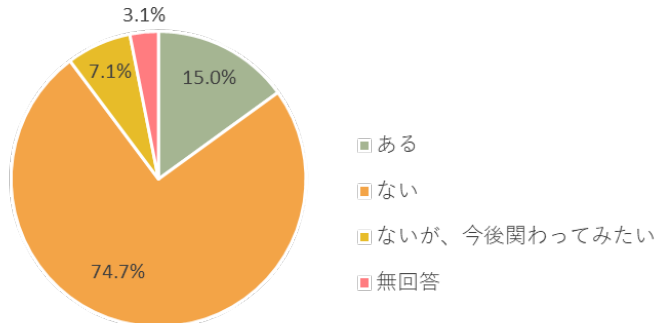


【V あなたの緑に対する取り組みについて】

問 19 関わっている緑に対する取組み（単一回答）

緑の取組みに関する関心度について、74.7%の市民が緑の取組みに関わったことがないと回答しています。

N=1,377

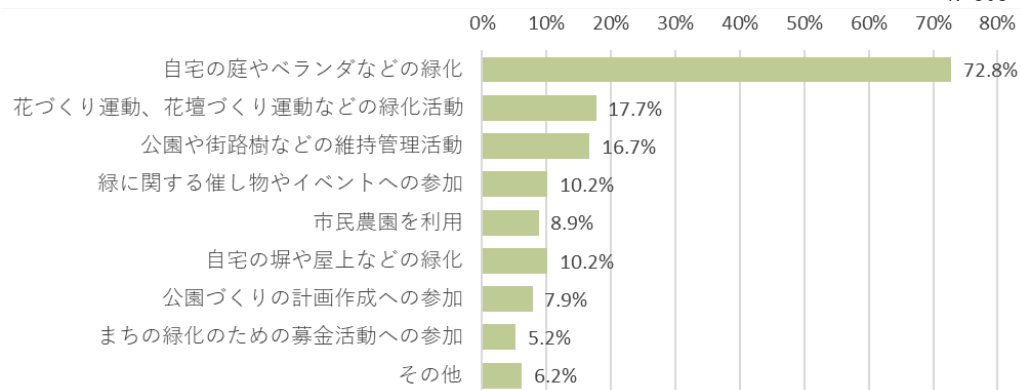


問 20

（問19で「1. ある」「3. ないが、関わってみたい」と回答した方）
緑に対する取組みで、現在関わっていること、または、今後関わってみたいこと（複数回答）

関わっているもしくは今後関わりたい取組みとして、「自宅の庭やベランダなどの緑化」(72.8%)が最も多く、次いで「花づくり運動、花壇づくり運動などの緑化活動」(17.7%)、「公園や街路樹などの維持管理活動」(16.7%)が挙げられています。

N=305

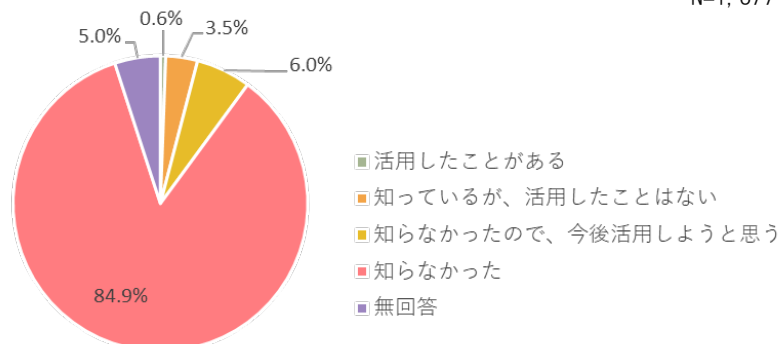


問 21

「あいち森と緑づくり税」を活用した補助金の認知度と活用実績

補助金の認知度と活用実績として、「活用したことがある・知っているが、活用したことはない」と回答した市民が4.1%に対し、「知らなかった」と回答した市民が90.9%と市民への認知度は低い状況となっています。また、知らなかったと回答した市民のうち、6.0%は今後活用しようと考えています。

N=1,377



(4) 自由意見（抜粋）

分 類	主な意見
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも安心して生活できるまちづくり ・あま市の自然を生かした、緑豊かなまちづくり ・水害から守られる安心・安全なまちづくり ・あま市の独自性を打ち出したまちづくり
交 通 (道路交通・公共交通)	<ul style="list-style-type: none"> ・あま市巡回バスを充実（バス停・ルート再編など）させ、車が無くても安全に便利に移動できるようにしてほしい ・道路が狭いのに交通量が多く危険なため、道路拡幅が必要 ・歩道がなく安全に通行できないため、歩道の設置が必要
水・緑	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊ぶことができ、散歩などを楽しむことができる公園があると良い ・新庁舎などの公共施設に緑豊かで安らげる場所があると良い ・行政だけでなく、市民や事業者も協力した維持管理の方が重要 ・農地は水害対策として重要になるため、維持してほしい ・公園や緑道は大切だが、整備した後の維持管理の方が重要 ・公園が少なく、家から歩いて行ける公園が少ない ・下水道や用悪水路の整備、維持管理を進めてほしい
まちの にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> ・大型の商業施設や企業を誘致して、まちのにぎわいを増やしてほしい ・地域の人が集い、活躍できる場所（道の駅など）があるとよい ・若者が興味を持つ施設や取組が不足している
防 災	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震に備えた防災機能を充実させてほしい ・ゲリラ豪雨などの大雨による河川の氾濫が心配 ・水害時に避難できる場所（高い建物など）が不足している
防 犯	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策（解体補助など）をもっと考えてほしい ・夜は街灯がなく暗いため、街灯設置が必要
観 光	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全体の観光ルートを作成してはどうか ・甚目寺観音のマルシェは良い取り組みのため、もっとPRするべき ・七宝焼を活用して人をたくさん呼び込む仕掛けを考えるべき
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの年代に応じた情報発信やPRの仕方を考えてほしい ・公共施設（アートヴィレッジなど）を有効活用してほしい